サブウーファーシステム

Soavo-900SW

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください。

ヤマハサブウーファーシステムSoavo-900SWをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

目次

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

本機のSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。また、主電源スイッチを「切」にしても、本機はまだ完全には主電源から遮断されていません。
本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理および調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため、本機を設置する際には:
- 布やテーブルクロスをかけない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲（左右、上、背面）に20 cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

使用上の注意

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

ポート(開口部)に異物を入れたり、落としたりしない。
火災や感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
サブウーファーの振動により、物が落下してけがの原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的に取り除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントの根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
外装の変形や、内部回路への悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。
スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

注意

接続する場合は、アンプの電源を切る。接続方法は、それぞれの機器の取扱説明書に従う。

移動

プラグを抜く

移動するときは、本機および接続機器の電源スイッチを切り、すべての接続コードを外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止

持ち運ぶときは、ポート(前面開口部)、前面のネットに手をかけない。
ポートが外れたり、ネットが破れたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前に、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときは、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

ポート(前面開口部)に手を入れない。
感電やけがの原因になります。

禁止

サブウーファーのすぐ前に、割れやすい物を置かない。
サブウーファーからの空気圧により、物が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

本機に乗ったり、寄りかかったりしない。
落下や転倒したり、破損したりして、けがの原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

お手入れのしかた

キャビネットを美しく保つため、柔らかい布で乾拭きするようにしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

はじめに

特長

◆ **ハイパワー 600 W ヤマハデジタルアンプ搭載**

◆ **LFE 入力端子装備**

◆ **豊かな重低音を再生するアドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー Ⅱ搭載**

◆ **リモコン付属**
付属のリモコンを使用して、視聴位置から本機の電源、音質、音量バランスなどを操作できます。

◆ **2 種類の入力端子を装備**
アンプのサブウーファー出力端子、スピーカー端子のどちらにでも接続できます。組み合わせるオーディオシステムを選びません。

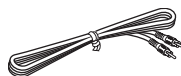
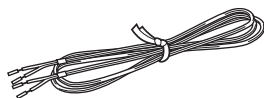
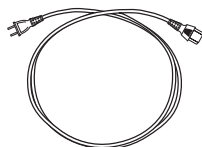
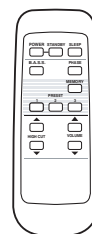
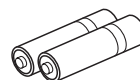
◆ **スリープ機能**
設定すると、120 分後に本機が自動的にスタンバイ（待機）になります。おやすみのときなど便利です。

◆ **ソースに適した低音を再生**
ソースのタイプに適した低音再生モードを選択できるB.A.S.S.（バス）モードスイッチを装備しています。

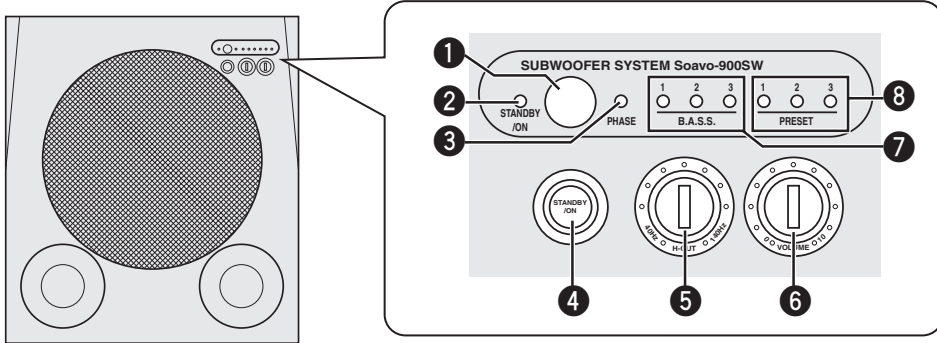
本書について

- 本体とリモコンのどちらでも操作できる場合はリモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「ご注意」では操作、設定を行うときに留意すべき事項、 では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- イラスト上の数字（1、2 など）は操作の手順をあらわしています。

付属品の確認

付属品がすべてそろっているか、確認してください。

サブウーファー用ピンケーブル (5 m 、1 本)

スピーカーケーブル (4 m、2 本)

電源コード（1 本）

リモコン

単３乾電池 (2 本)

各部の名称とはたらき

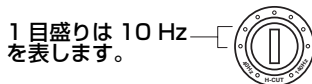
■ フロント

❶ リモコン受光窓
リモコンからの信号を受信します。

❷ STANDBY/ON（スタンバイ/オン） インジケーター
本機の電源モードを表示します。
緑：本機がオンの状態。
赤：スタンバイ（待機）状態。
オレンジ：スリープタイマーがオンの状態。

❸ PHASE（フェーズ） インジケーター
位相の設定を表示します。
緑：逆相の状態。
赤：正相の状態。

❹ STANDBY/ON（スタンバイ/オン） スイッチ
本機の電源（オン／スタンバイ）を切り替えます。

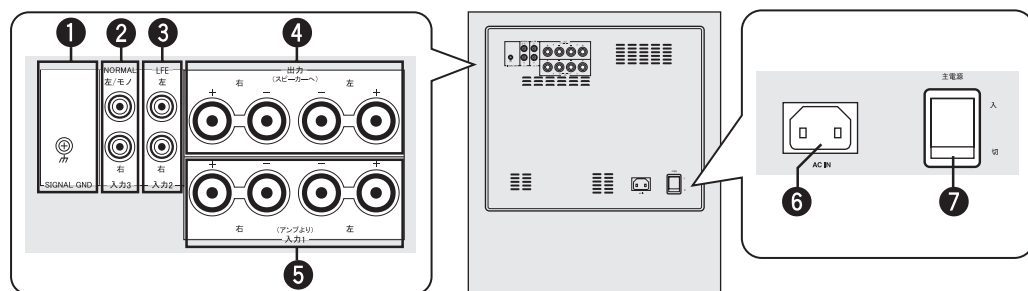
スタンバイ（待機）状態になっている間も、本機は微量の電力を消費しています。

❺ H-CUT（ハイカット） ツマミ
組み合わせるスピーカーや好みに合わせて、
カットする高域の周波数を調節します。
（19 ページ参照）

❻ VOLUME（ボリューム） ツマミ
本機の音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

❼ B.A.S.S.（バス） インジケーター
現在選択されている B.A.S.S. モードを表示します。（16 ページ参照）

❽ PRESET（プリセット） インジケーター
現在選択されている設定（PRESET）を表示します。（17 ページ参照）

ご注意
- PRESET インジケーターが点灯しているときに本機の電源をスタンバイ（待機）状態にすると、次に電源を入れたときにPRESETインジケーターは点灯しません。
- リモコンの PRESET（1、2 または 3）以外のキーを押したり本体で他の操作をしたりすると、PRESET インジケーターは消灯します。

■ リアパネル

❶ **SIGNAL（シグナル） GND（ジーエヌディー）（アース）端子**
（15 ページ参照）

❷ **入力３端子**
（10、11 ページ参照）

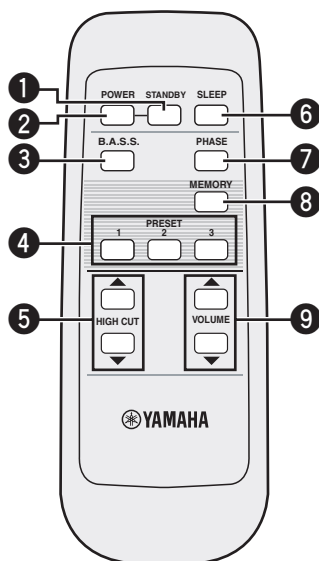
❸ **入力２ (LFE) 端子**
（11 ページ参照）

❹ **出力端子**
（13 ページ参照）

❺ **入力１端子**
（13、14 ページ参照）

❻ **AC IN（エイシー イン） 端子**
付属の電源コードを接続します。（15 ページ参照）

❼ **主電源スイッチ**
本機の電源（入／切）を切り替えます。
通常は「入」にして使います。しばらくの間、使用しない場合は「切」にします。

■ リモコン

❶ **STANDBY（スタンバイ） キー**
本機の電源をスタンバイ（待機）にします。

スタンバイ（待機）状態になっている間も、本機は微量の電力を消費しています。

❷ **POWER（パワー） キー**
本機の電源をオンにします。

❸ **B.A.S.S.（バス） キー**
再生ソースに合うモードを選択します。
押すたびにB.A.S.S.インジケーター（1／2／3）が切りかわります。

❹ **PRESET（プリセット） キー**
B.A.S.S.、ボリューム、ハイカット周波数、および位相の設定をメモリーするとき、または呼び出すときに使います。（17 ページ参照）

❺ **HIGH CUT（ハイカット） ▲／▼ キー**
カットする高域の周波数を調節します。
組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調節します。（16 ページ参照）

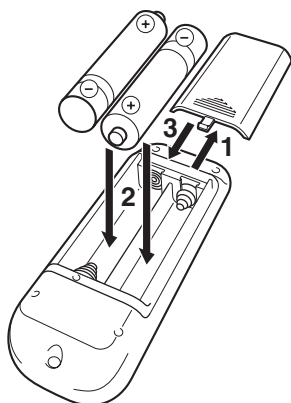
❻ **SLEEP（スリープ） キー**
スリープタイマーを設定します。（17 ページ参照）

❼ **PHASE（フェーズ） キー**
位相を設定します。
通常は逆相に設定しますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、正相の方がより良好な低音域を再生する場合があります。試聴を繰り返して、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。（16 ページ参照）

❽ **MEMORY（メモリー） キー**
B.A.S.S.、ボリューム、ハイカット周波数、および位相の設定をメモリーします。（17 ページ参照）

❾ **VOLUME（ボリューム） ▲／▼ キー**
本機の音量を調節します。

リモコンを準備する

■ リモコンに電池を入れる

1 裏ぶたの マークを押しながら、電池カバーを取りはずします。

2 付属の単 3 乾電池（2 本）を、リモコンの電池ケースに入れます。
電池のプラス（+）極性とマイナス（−）極性の向きを正しく入れてください。

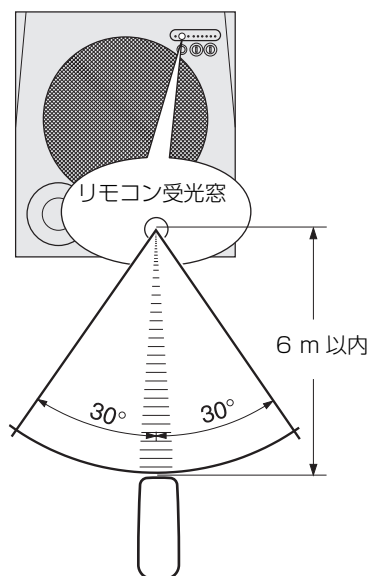
3 電池カバーを閉じます。

乾電池の交換について

リモコンで操作しづらくなった場合は、すべての乾電池を新しいものに変えてください。

ご注意

- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 種類の異なる乾電池 (アルカリとマンガンなど) を混ぜて使わないでください。形状が同じでも性能が異なるものがあります。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいに拭いてください。
- 電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。

リモコンでうまく操作ができないときは、以下の点を確認してください。

- 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
  → 布などを取り除いてください。
- 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明 (インバーター蛍光灯など) が当たっていませんか？
  → 照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えください。
- 乾電池が消耗していませんか？
  → すべての乾電池を新しいものに変えてください。

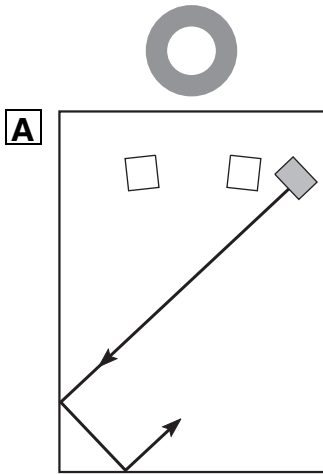
リモコンの取扱いについて

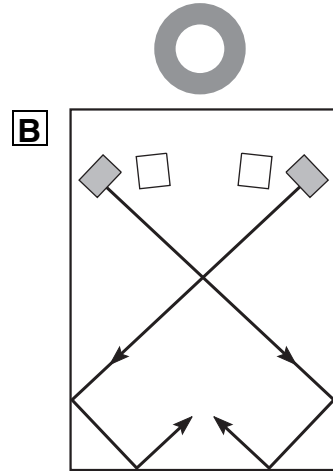
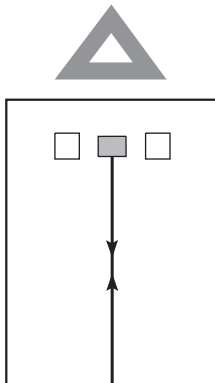
- リモコンに水やお茶をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に湿度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

本機の置きかた

音の低音成分は波長が長いため、人間の耳にはあまり方向が感じられず、無指向に近い特性となります。したがって低音域ではステレオ感がなくなり、１台のサブウーファーでも効果的な低音を再生することができます。しかし、フロントスピーカーと同じように左右２台のサブウーファーを設置することにより、さらに豊かな音場で再生することが可能になります。（ ：サブウーファー、 ：フロントスピーカー）

■ サブウーファー１台の場合

フロントスピーカー（左右いずれか）の外側に設置します。

■ サブウーファー２台の場合

各フロントスピーカーの外側に設置します。

下図のように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい音が聞こえにくくなることがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。これを避けるためには、上図（Ⓐまたは Ⓑ）のように壁に対して斜めに設置すると効果的です。

本機は防磁型設計となっておりますが、万一テレビの近くでご使用になり色ムラや雑音などが生じるときは、テレビとスピーカーの距離を離してご使用ください。

接続のしかた

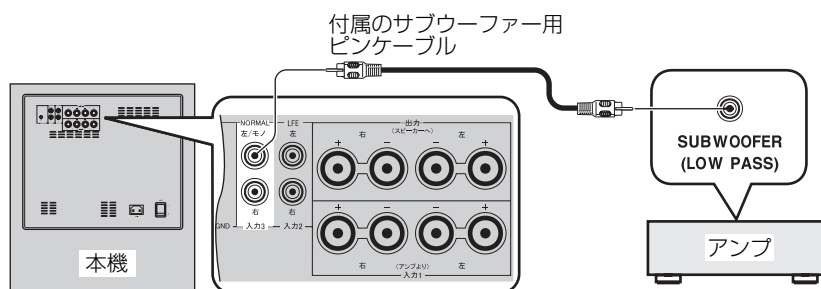
接続方法は、サブウーファー端子を備えたアンプをお使いの場合は 10、11 ページ、備えていないアンプをお使いの場合は 12 ～ 14 ページをご覧ください。

ご注意

- すべての接続が完了するまで、電源コードを AC コンセントに接続しないでください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバーなど）によっては、接続方法や端子名が本書の説明と異なることがあります。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子の左、右（L 、R）や極性（+、－）を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

1 サブウーファー出力端子を備えたアンプと接続する

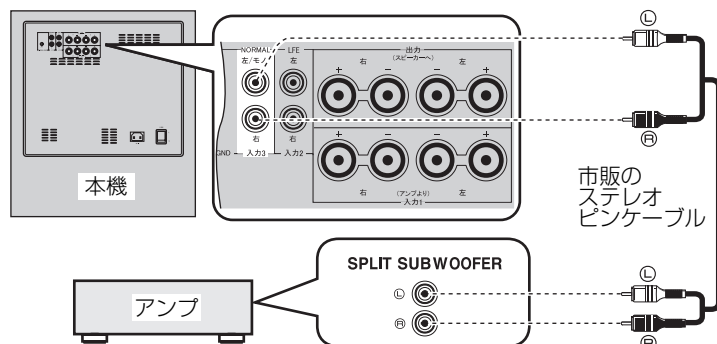
アンプのサブウーファー出力端子が 1 チャンネルの場合

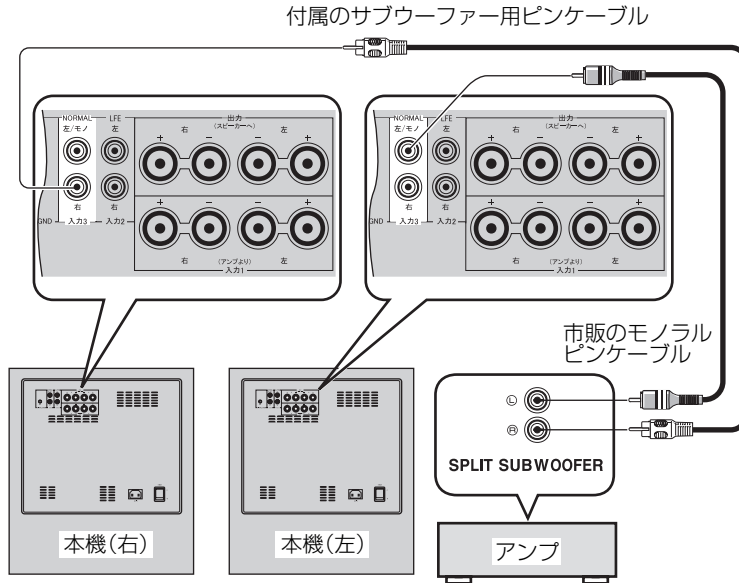
付属のサブウーファー用ピンケーブルを使用して、アンプのサブウーファー端子を本機の入力３（左 / モノ）端子へ接続してください。

アンプのサブウーファー出力端子が２チャンネル (L/R) の場合

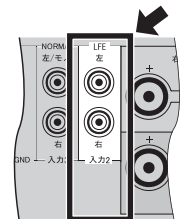
■ 本機を 1 台使用する場合

市販のステレオ用ピンケーブルを使用して、アンプのＬ端子を本機の入力３（左 / モノ）端子へ、アンプのＲ端子を本機の入力３（右）端子へ接続してください。

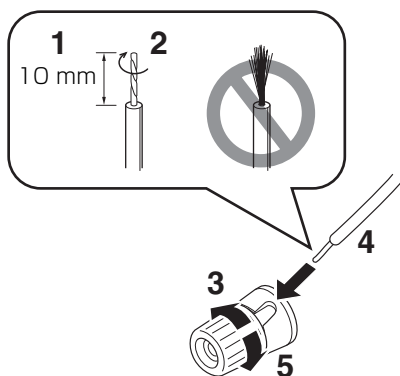
ご注意

本機の入力３（左 / モノ、右）端子に入力した信号は、出力 (スピーカーへ) 端子からは出力できません。

■ 本機を左右に 2 台使用する場合

付属のサブウーファー用ピンケーブルを使用して、アンプのサブウーファー出力 R 端子と本機（右）の入力３（右）端子を接続します。市販のモノラルピンケーブルを使用して、アンプのサブウーファー出力 L 端子と本機（左）の入力３（左/モノ）端子を接続します。

■ ハイカット機能を備えているアンプを接続する場合

お使いのアンプが、サブウーファーへの音声出力用に信号の高域周波数をカットする機能を備えている場合は、入力２ (LFE) 端子に接続してください。本機の HI-CUT 回路がバイパスされて、より優れた音質が得られます。

2 サブウーファー出力端子を備えていないアンプと接続する

付属のスピーカーケーブルを使ってアンプやフロントスピーカーを本機と接続します。端子の接続方法は以下の通りです。

■ スピーカーケーブルの接続方法

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部分を10mm くらいはがします。

2 芯線を指でしっかりよじります。

3 端子を左に回してゆるめます。

4 スピーカー端子のわきの穴にスピーカーケーブルを差し込みます。

5 端子を右に回して締め付けます。

6 スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認します。

ご注意

- スピーカーケーブルはプラス（＋）とマイナス（－）を間違えないように接続してください。
- スピーカーケーブルはプラス（＋）とマイナス（－）がショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続します。ケーブルの絶縁部分（ビニール）まで差し込むと音が出ないことがあります。
- スピーカーケーブルは手や足に引っかけないよう、壁や床などに固定してください。

■ バナナプラグの接続方法

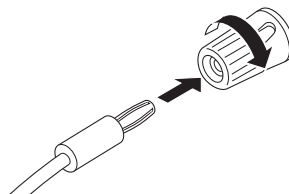
市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

アンプにスピーカー端子が 1 系統だけある場合

付属のスピーカーケーブルを使用して、アンプのスピーカー端子と本機の入力 1 端子を接続します。次に、フロントスピーカーと本機の出力端子を接続します。

フロントスピーカーは本機を経由しての接続となりますが、音量や音質に影響を与えることはありません。

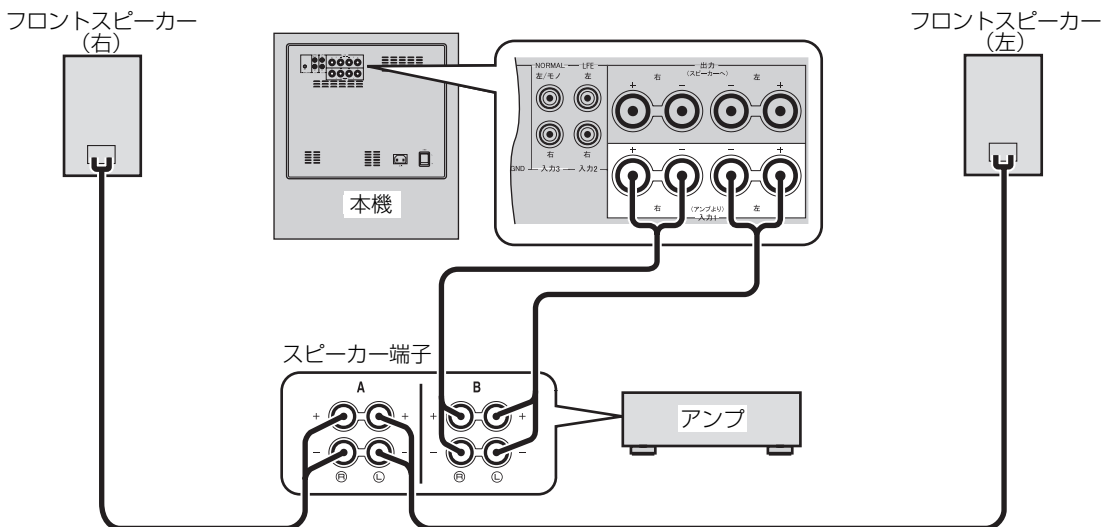
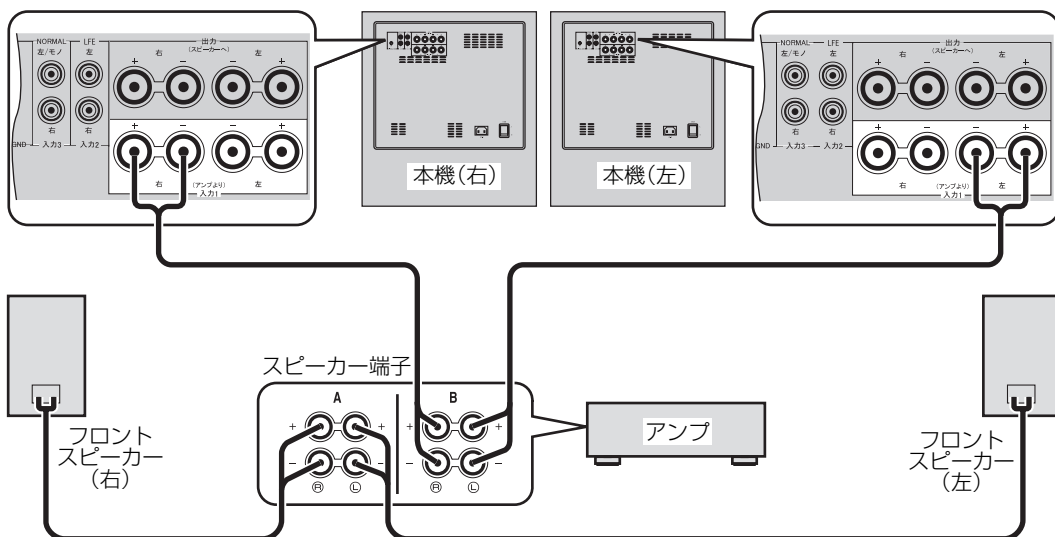
■ 本機を 1 台使用する場合

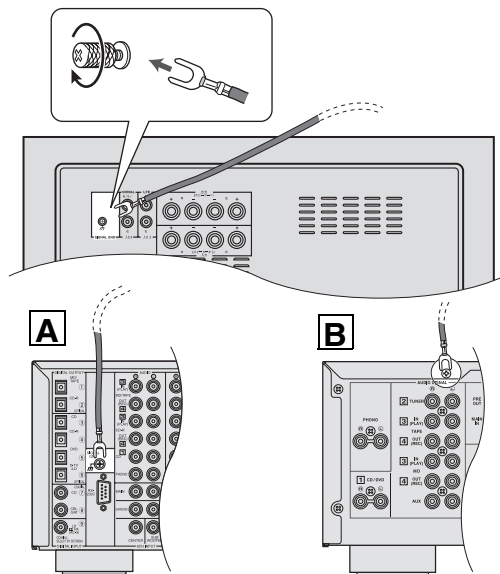
■ 本機を左右に 2 台使用する場合

アンプにスピーカー端子が 2 系統 (A、B) あり、同時出力が可能な場合

- 付属のスピーカーケーブルを使用して、アンプのスピーカー端子（A または B）を本機の入力 1 端子へ接続します。次にもう一方のアンプのスピーカー端子をフロントスピーカーに接続します。
- アンプ側で、スピーカー端子 2 系統から同時出力するように設定します。

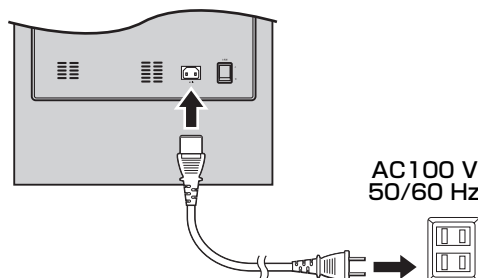
ご注意

アンプにスピーカー端子が 2 系統あっても同時出力できない場合は、「アンプにスピーカー端子が 1 系統だけある場合」(13 ページ) の方法で接続してください。

■ 本機を 1 台使用する場合

■ 本機を左右に 2 台使用する場合

アースの接続

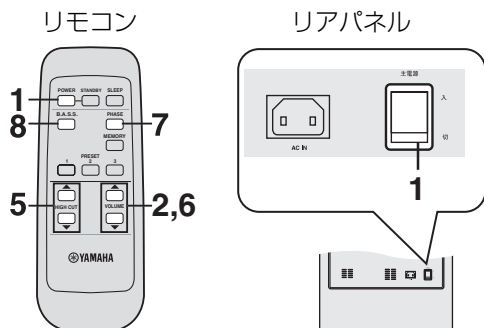
本機をアンプのスピーカー端子と接続した際にハム音（ブーンとうなるような音）が出る場合は、下図（A）のように本機とアンプを市販のアースケーブルで接続してください。
アンプにアース（GND）端子がない場合は、下図（B）のようにリアパネルのトップカバーを取り付けているネジをご利用ください。

ご注意
アンプと本機の電源コードが AC コンセントに接続されていないことを確認してからアース接続をしてください。

電源コードの接続

すべての接続が終了したら、付属の電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100 V、50/60 HzのACコンセントに電源プラグを接続します。接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

ご注意
- 必ず付属の電源コードをご使用ください。他の電源コードを使用すると本機の故障や火災の原因となります。
- 付属の電源コードは、本機以外の機器に使用しないでください。
- アンプの AC アウトレットには接続しないでください。音が割れたり、アンプの電源が突然切れてしまう場合があります。

本機を使う

音量バランスの設定

音量バランスを調節すると、フロントスピーカーと本機の音のつながりが滑らかになり、より効果的な低音を再生することができます。

1 本機背面の主電源スイッチが「入」になっていることを確認してから POWER キーを押して本機の電源をオンにします。
STANDBY/ONインジケーターが緑色に点灯します。

2 VOLUME ▼ キーを押して本機の音量を最小 (0) にします。

3 本機に接続された各機器の電源を入れます。

4 低音を含んでいるソースを再生し、フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。
通常お聴きになる音量にします。
トーンコントロールは、いったんフラットにしてください。

5 HIGH CUT ▲ ／▼ キーで、カットする周波数を調節します。
フロントスピーカーの最低再生周波数(再生可能な最も低い周波数)より、やや高めに調節します。フロントスピーカーの最低再生周波数については、お使いになるフロントスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

6 VOLUME ▲ キーを押して本機の音量を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスを調節します。
本機を接続していないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

好みの音量が得られない場合は、手順５と６を繰り返してください。

7 PHASEキーを押して、自然な(好みの)位相(逆相または正相)を選択します。

8 B.A.S.S. キーを押して再生するソースに合うモードを選択します。

1: WIDE
映画等のソースで、より迫力のある再生音を楽しむために効果音を補強するモードです。

2: NORMAL
音楽、または映画等のソースで自然な再生音を楽しむためのモードです。

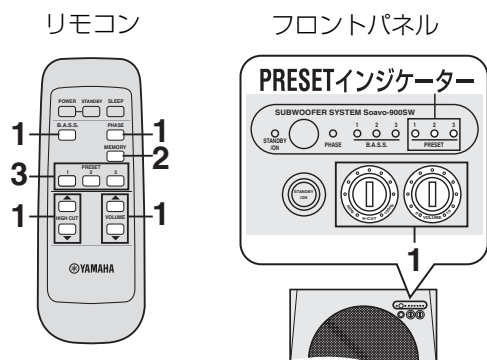
3: NARROW
通常の音楽ソースで、不要な低音域をカットし、よりクリアな音質を楽しむためのモードです。

* 一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。ただし、フロントスピーカーを変更した場合は、再度この手順に従ってバランス調節してください。

PHASEキーについて
PHASE キーは、フロントスピーカーに対して本機を正相につなぐか逆相につなぐかを切り替えます。
フロントスピーカーの種類(密閉型／バスレフ型)や設置状況によって音の拡がりやしまりがそれぞれ異なりますので、正相／逆相の両方を試聴してみて最も自然な再生音になる方を選んでください。

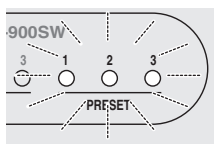
設定の保存

本機では、音量、ハイカット周波数、位相および B.A.S.S.の設定を3つまで保存することができます。

リモコン　　フロントパネル

■ 保存するには

ここでは例としてPRESET 1に設定を保存します。

1 VOLUME ▲／▼キー、HIGH CUT ▲／▼キー、PHASEキーおよびB.A.S.S.キーで、音量バランスを調整します。（16ページ参照）

2 MEMORYキーを押します。
フロントパネルのPRESETインジケーターが点滅します。

3 PRESET 1キーを押します。
PRESET 1インジケーターが点灯します。現在の設定がPRESET 1に保存されます。

- 手順3で既に設定を保存済みのキーを押した場合、新しい設定で上書き保存されます。
- PRESETキーを押して、音量ツマミまたはハイカット周波数ツマミが回っている間は、他の PRESETキーを押しても設定を呼び出すことはできません。

■ 呼び出すには

該当するPRESETキー（1、2または3）を押します。

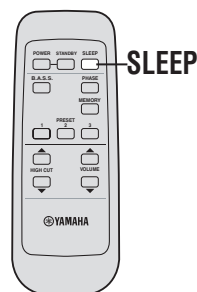
■ メモリーバックアップについて

本機の電源を主電源スイッチで切ると、次回電源を入れたときに元の設定状態（電源を切る前）に復帰します（ラストメモリー機能）。

ご注意

本機背面の主電源スイッチを「切」にしたり電源コードをACコンセントから抜いたりして、一週間以上電源が供給されないと、保存された設定は消去され工場出荷時の状態に戻ります。

スリープタイマーの設定

スリープタイマーをセットすると、120分後に自動的にスタンバイ（待機）にすることができます。おやすみのときなどに便利です。

SLEEPキーを押します。
STANDBY/ON インジケーターがオレンジ色に変わります。

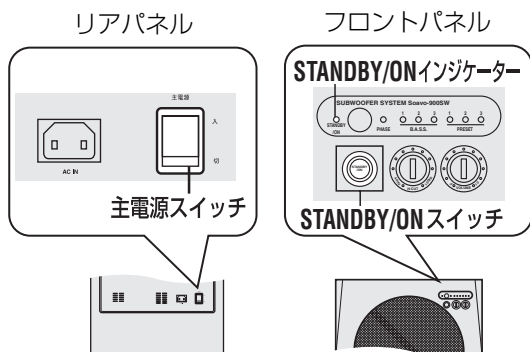
もう一度SLEEPキーを押すとスリープタイマーは解除されます。

本機の電源をアンプのリモコンで操作する

*以下の条件を満たしているヤマハ製アンプのリモコンを使って本機の電源を操作することができます。

- 2005 年以降に発売された機種
- リモコンの ON ボタンと STANDBY ボタンが独立している機種

ご注意

リモコンのアンプライブラリーコードを変更している場合は、本機の電源を操作できない場合があります。

■ 設定するには

1 本機背面の主電源スイッチを「切」にします。

2 本機のSTANDBY/ONスイッチを押しながら主電源スイッチを「入」にします。
そのまま STANDBY/ON スイッチを 3 秒以上押し続けます。

STANDBY/ON インジケーターが 4 回点滅し、本機の電源をアンプのリモコンで操作できるようになります。

■ 解除するには

1 本機背面の主電源スイッチを「切」にします。

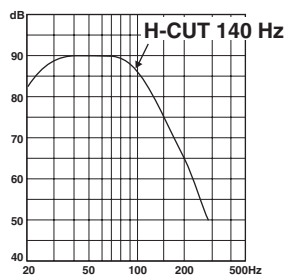
2 本機のSTANDBY/ONスイッチを押しながら主電源スイッチを「入」にします。
そのまま STANDBY/ON スイッチを 3 秒以上押し続けます。

STANDBY/ON インジケーターが 2 回点滅し、設定が解除されます。

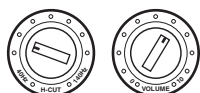
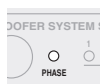
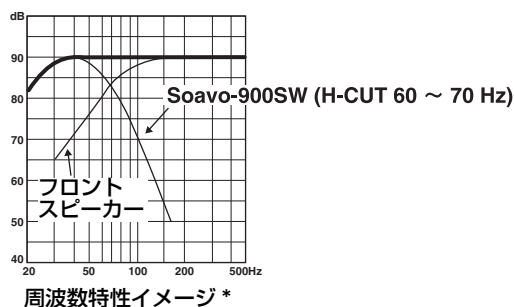
ご注意

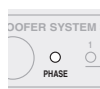
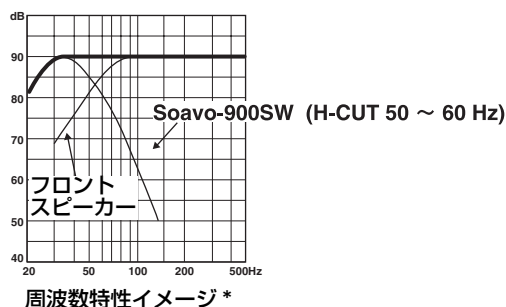
本機をアンプのリモコンの受光範囲内に設置してください。本機とアンプを離してすぎて設置すると本機とアンプの電源が連動しない場合があります。

本機の周波数特性と調整例

カットする周波数、音量、位相の調節は、組み合わせるスピーカーや設置状態、リスニングポジション、再生するソース、音量バランスなどの条件によって異なります。下記は、口径 10 ～ 13 cm または 20 ～25 cm のスピーカーシステムと本機を組み合わせた場合の各ツマミの調節位置、そしてそのときの総合周波数特性の一例です。スピーカーシステムの低域特性は、口径の大きさ以外の要素によっても異なりますので、あくまでも参考としてお手持ちのスピーカーシステムとの調節を行ってください。

周波数特性範囲イメージ *

■ 口径 10 ～ 13cm のスピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例

フロントスピーカーに Soavo-1 をお使いのときは、以下の例を参考に調整してください。

周波数特性イメージ *

■ 口径 20 ～ 25cm のスピーカー (2 ウェイ型) との組み合わせ例

周波数特性イメージ *

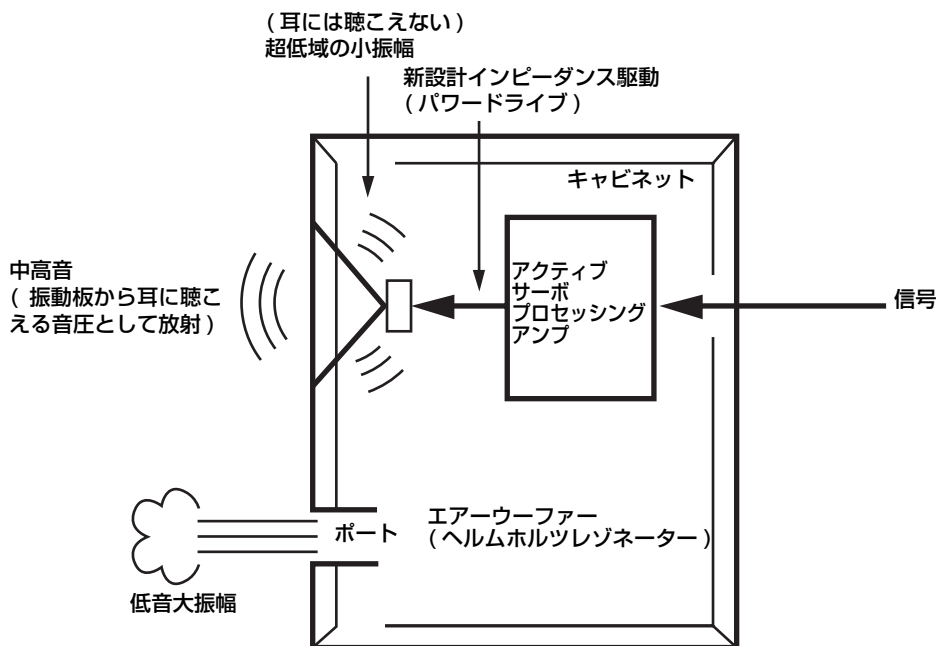
* 実際の周波数特性を厳密に表したものではありません。

Advanced Yamaha Active Servo Technology II

（アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー）

１９８８年、ヤマハは独自のＹＳＴ（Ｙａｍａｈａ Active Servo Technology）方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーを電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、スピーカーユニットの共振点に合わせ、従来の負性駆動と併せて定電流駆動を適用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。

故障かなと思ったら

本機が正常に機能しない場合は、まず下記の点をご確認ください。下記に記載されていない場合、あるいは問題が解決しない場合は、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはサービス拠点にご相談ください。

症状	原因	対策
STANDBY/ON スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	本機の主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
音が出ない。	本機の VOLUME が最小 (0) になっている。	VOLUME ▲ キーを押して音量を上げてください。
	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
低音が出ない、または小さい。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	フェーズ (位相) 極性の選択が適切でない。	PHASE キーで極性を切り換えてください。
	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。 または、HIGH CUT▲ キーを押して設定値を上げてください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
リモコンで操作できない。	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6 m 以内、角度 30°以内の範囲で操作してください。
	本機のリモコン受光窓に直射日光や照明（インバーター蛍光灯など）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
アンプのリモコンで、電源が入らない（本機の電源をアンプのリモコンで操作する設定をしている場合）。	アンプのリモコンの操作範囲から外れている。	本機をアンプのリモコン操作範囲内に設置してください。
本機を使用中に家庭内のブレーカーが落ちてしまう。	本機を過度の大音量で使用している。	本機の音量を下げて使用するか、または家庭内の不要と思われる電気機器の電源を切ってください。

ご注意

- 本機は、内蔵のパワーアンプとスピーカーの破損を防ぐため、過大な入力が 5 〜 15 分間以上続いた場合、STANDBY/ON インジケーターが点滅し始め、さらに 5 〜 15 分間入力が続くと、電源が自動的に切れます。
- 超過大入力があった場合はただちに電源が切れます。再び電源を入れるにはフロントパネルの STANDBY/ON スイッチを押します。

仕様

型式……………………Advanced（アドバンスド） Yamaha（ヤマハ） Active（アクティブ） Servo（サーボ） Technology（テクノロジー） II方式

スピーカーユニット……………………25 cm コーン防磁型

アンプ出力 (100 Hz、4 Ω、10%THD)……………………600 W

再生周波数帯域……………………18 Hz ～ 160 Hz

電源 / 電圧……………………AC100 V、50/60 Hz

消費電力……………………120 W

待機時消費電力……………………0.5 W

寸法 (幅) × (高さ) × (奥行き)……………………410 x 457 x 462 mm

質量……………………32 kg

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計･製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する
部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1